

JICA海外協力隊
(短期派遣)

JICA海外協力隊（短期派遣）

アジア・アフリカ・中南米・大洋州・中東の国々で、

1か月から1年未満の活動を行います。

「自分の持っている技術・知識や経験を、
開発途上国の人々のために生かしたい」という
強い意欲を持った方を募集しています。

長期派遣との大きな違いは「**活動期間が短いこと**」。

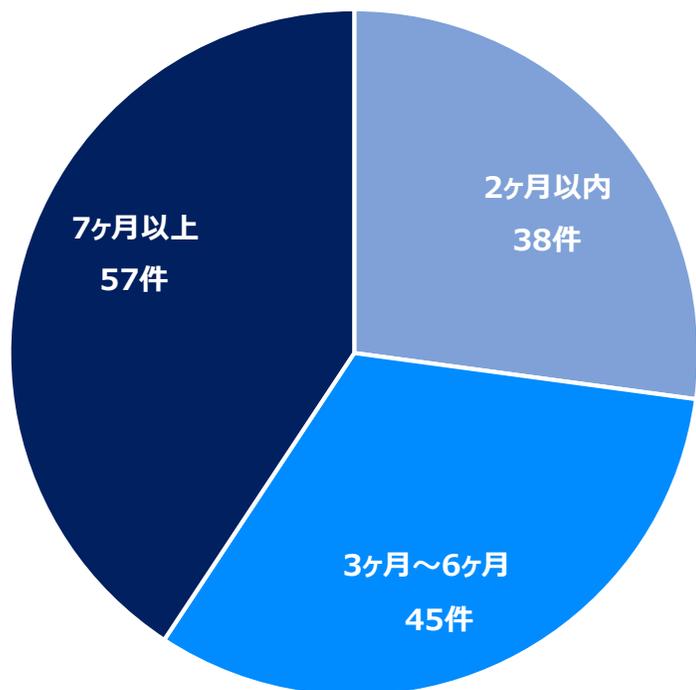
その分、「**即戦力として短期間で成果を上げること**」が求められます。

【一般案件】 短期派遣

青年海外協力隊 / 海外協力隊 / 日系社会青年海外協力隊 / 日系社会海外協力隊

- 派遣期間が2カ月以内の要請 : 38件
- 派遣期間が3カ月～6カ月以内の要請 : 45件
- 派遣期間が7カ月以上の要請 : 57件

合計要請数 : 140件

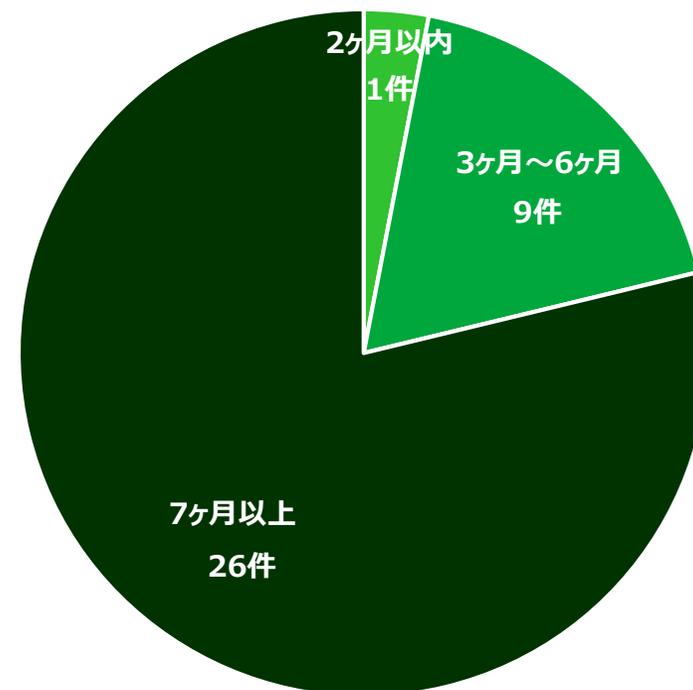


【シニア案件】 短期派遣

シニア海外協力隊 / 日系社会シニア海外協力隊

- 派遣期間が2カ月以内の要請 : 1件
- 派遣期間が3カ月～6カ月以内の要請 : 9件
- 派遣期間が7カ月以上の要請 : 26件

合計要請数 : 36件



応募区分

【一般案件】 短期派遣

年齢	区分	応募可能要請数
20歳～45歳	青年海外協力隊	応募可能な職種は 1職種のみ3要請まで
46歳～69歳	海外協力隊	
20歳～45歳	日系社会青年海外協力隊	
46歳～69歳	日系社会海外協力隊	

【シニア案件】 短期派遣

年齢	区分	応募可能要請数
20歳～69歳	シニア海外協力隊	応募可能な職種は 1職種のみ3要請まで
	日系社会シニア海外協力隊	

応募資格

日本国籍を持つ方

以下の方は応募できません。

- ・派遣中のJICA海外協力隊
- ※ただし、二次選考までに当初任期を満了し、面接が可能なJICA海外協力隊の方は応募できます。
- ・既にJICA 海外協力隊に合格し、訓練／派遣が予定され、その予定と短期派遣の選考～派遣が重複する者
- ・禁固刑以上の刑に処せられ、その執行を終えるまでまたは執行を受けることがなくなるまでの者
- ・暴力団員その他の反社会的勢力に属する者

以下の方は派遣国に制限がある、派遣取りやめになる可能性がありますのでご注意ください。

- ・日本国以外の国籍もお持ちの方
- ・裁判が係属中の方
- ・破産手続き中の方
- ・二次合否通知日以降も有効な査証等、本邦以外の滞在資格をお持ちの方

応募案件

短期派遣では、案件への応募となります。
応募できる職種は一職種・最大3要請です。
一部の要請は、45歳以下の方のみ応募可能です。

【併願について】

- ・短期派遣は一般案件とシニア案件の併願が可能です。
- ・短期派遣と長期派遣は併願が可能です。が、面接日や訓練、派遣時期等が重複している場合には併願できません。

待遇等

- ・JICA規定に基づき往復旅費、日当、宿泊費等を支給します。
- ・企業や官庁など所属先に身分を残したまま参加する「現職参加」も可能です。

短期派遣者向け訓練

- ・原則 5 日間で実施します。語学訓練はありません。

応募～選考について

応募はウェブ応募となります。

* JICA海外協力隊応募者用マイページからご応募ください。

【応募時の提出物】

- ・全員 : 応募者調書／応募用紙／語学証明書の写し／技術調書／問診表
- ・該当者 : 健康診断書／免許証又は認定書の写し

【選考について】

選考は一次選考（書類審査）および二次選考（書類審査・面接）がございます。
応募者のJICA海外協力隊としての適性を、人物、技術、語学、健康面からJICAが総合的に判断します。

- ・人物
隊員としての適性について審査します。
- ・技術
各専門分野の選考委員が応募者の技術レベルと応募している要請との適合性を審査します。
- ・語学
「語学力申告」の申告内容をもとに審査します。
- ・健康
応募されている国の医療衛生事情を踏まえて審査します。

JICA海外協力隊（短期派遣）

- 経験者の活動紹介 - 1

（長期派遣未経験者）

氏名

渡辺 幸
SACHI WATANABE

派遣国

マレーシア



派遣職種

ソーシャルワーカー

青年海外協力隊

任期

2006年1月17日～2006年4月16日

要請内容

マレーシアの首都から北西へ200KmにあるNGO団体が運営する障害児・者施設において、スポーツやレクリエーション活動などを通して以下を行う。

- 1、地域住民や家族を巻き込んだ活動やイベントへの協力
- 2、障害児・者の主体的な活動を促す活動やイベントへの協力

基本的には、前任者（青少年活動）が実施していた活動の継続と既存イベントの改善やサポートを行う。



応募前の職業

フィットネスクラブのインストラクター

JICA海外協力隊 (短期派遣)への 参加理由

仕事を通して外国人の方と出会ううちに、海外で働いてみたいという気持ちになりました。ちょうど協力隊事業が短期派遣制度を開始したばかりで、求人サイトに募集要項が掲載されており、語学力がある程度あれば長期派遣の経験がなくても応募ができるということでした。その中でスポーツのバックグラウンドが活かせる案件を探してみたところ、マレーシアの案件があった為、海外へ出てみたいという気持ちと応募締め切りのタイミングがうまく重なり、まずは応募してみようと応募しました。

長期派遣ではなく、 短期派遣に応募した理由

上記と重複しますが、締め切りのタイミングと、すぐに派遣されるというスピード感がその当時の自分にマッチしたのだと思います。帰国後に長期派遣にトライするという選択肢もあると思い、その時点で一番早いタイミングで派遣される短期派遣を選びました。

帰国後の進路

短期隊員として活動する中で社会福祉の重要性に触れ、さらに知識を広げたいと考えるようになり、働きながら学べる福祉経営学学位（大学通信教育課程）の取得をしました。ただ今考えてみると、一番大きく影響を与えたのは、派遣を通じて積極的になった事、そして新しい環境に身を置く事で視野が広がる楽しさとその重要性を経験したからだと思います。その上で、自分自身が興味のある「異文化コミュニケーション」「人材育成」の分野をより深く学べる環境を目指し、外資系ホテルやJICA企画調査員（ボランティア事業）に携わりました。

現地で見つけた課題

1、国内外から多くのボランティアを受け入れ、独自で非常にしっかりとした障害児・者支援を実践していましたが、現地スタッフと積極的にコミュニケーションを取るうちに、現地スタッフの能力の更なる活用が必要だと考えるようになりました。

(チーム内のコミュニケーションが不足)

2、もちろん利用者への支援は充実していましたが、継続的な支援において重要となる家族や地域に向けたイベントやワークショップをさらに活性化できる余地があると感じました。

(家族が学ぶ機会が少ない)



課題解決への取り組み

1、青年海外協力隊という立場であれば、施設長から新人スタッフまで、幅広くフラットに会話できるため、それぞれの立場で考えていること、感じていることを観察し、聞き出しました。すると日本で抱えているような世代間や役職間でのギャップがあるように思えました。

マレーシア人は元来、明るくおおらかで陽気ですが、シャイで年齢や序列を重んじる傾向もあるので、その壁の橋渡し役になれるよう務めました。派遣前の自分自身からは想像ができないくらい積極的にコミュニケーションを取っていたと思います。

2、配属先は新しいアイデアを実践することに積極的でしたので、家族を対象とした障害理解のワークショップの開催を提案しました。家族が配属先の活動や、障害についての理解が深まるきっかけになればと配属先長や同僚と企画を考えました。

派遣終了時の成果を教えてください

3ヶ月間でしたので、周囲の変化まで見届ける事は難しかったですが、一方通行のコミュニケーションにならないように努め、指示を受ける・指示をする、といったシンプルな構造ではなく、双方が話を聞き、意見を取り入れながら取り組む楽しさを伝えられるような活動を心掛けました。また、周囲の変化を目指すのであれば、まずは自分自身の考え方やアプローチを変えることが、結果的に周りの理解を導き、当初のイメージ通りではなくても、目標に到達できると活動を通して学べたことは大きな成果でした。それが今に活かされていると信じています。

■ 経験者インタビュー

応募前にどんな不安を持っていましたか？

現地語であるマレー語が全く話せなかったため、上手くコミュニケーションが取れるかどうかと、障害児・者支援の専門知識が必要とされること。

その不安は派遣されてからどう変わりましたか？

マレーシアは多民族国家でマレー語の他にも英語が共通語として広く普及しており、英語でも十分にコミュニケーションが取れました。また利用者である障害児・者の方々とは、英語や手話、ボディランゲージでコミュニケーションを取ることが出来ましたし、英語が苦手な家族の方と話すときは、必ず誰かが通訳をかってでてくれました。もちろん語学力は重要ですが、積極的にコミュニケーションを取ることで、打ち解けることが出来ましたし、時間をかけてコミュニケーションを取る楽しさを学びました。専門知識については、幅広い知識やアイデアを持ったスタッフがいましたので、私はそれを形にするための企画立案に務めました。実際に形となることで、モチベーションやアイデアを引き出すことも重要なスキルだと考えるようになりました。

短期で参加して「良かったこと」「大変だったこと」を教えてください。

期間が限られているので、失敗を恐れずどんどん行動に移せたことです。そのおかげで観察力・判断力や度胸ができました。準備期間が少なかったため、事前学習などが十分に出来なかったのですが、現地で見聞きする全てを吸収できたと思います。また短期間だからこそ、遠慮せずに自分の意見を伝える必要もあり、わかりやすく伝えることや、根気強く伝えるスキルの重要性に気がつきました。大変だったことは、大なり小なり沢山ありましたが、全てが経験として今に活かされていると感じます。実は前任の方が赴任前に「沢山悩むと思いますが、きっと最後には笑って話せるので・・・」とメッセージを下さったこともあり、反省はしても後悔はしないように活動出来ました。

応募を検討している人へメッセージをお願いします！

3ヶ月間でしたが、今までの自分が通用しない環境に身を置くことで、意見を伝える積極性、それを実践する行動力など自分自身の可能性を知ることが出来ました。
応募を検討されている方にはぜひ参加して頂きたいです。

JICA海外協力隊（短期派遣）

- 経験者の活動紹介 - 2

（大学連携での派遣）

氏名

開澤 菜月

NATSUKI HIRAKIZAWA

派遣国

パラグアイ



派遣職種

家畜飼育

青年海外協力隊

任期

2019年8月18日-2019年9月21日

要請内容

青年海外協力隊員（長期派遣）とともに対象酪農家へ個別指導を行うほか、定期モニタリング調査やベースライン調査を行う。また、酪農家に対して日本での経験、事例などを検討しながら技術指導を行う。

- 1、青年海外協力隊員（長期派遣）が活動対象としている酪農家への技術指導を補佐する。
- 2、プロジェクト内で選定した酪農家の定期モニタリング調査を行う。
- 3、酪農家の経営規模、衛生、栄養、繁殖等について酪農経営基礎調査を行う。
- 4、調査した内容をまとめ酪農家に対しフィードバックを行う。
- 5、酪農家に対し、現地で適用可能と思われる日本の畜産技術を紹介する。



応募前の職業

帯広畜産大学畜産学部 3年

JICA海外協力隊 (短期派遣)への 参加理由

大学入学当初から、少しでも専門性を持って海外で活動してみたいとひそかに心に決めていました。しかし、どうすればいいのかわからず大学生活が経過していきました。そんな中、大学の講義の中でこの要請の募集がありました。何回か話を聞くうちに、自分が大学で学んできたことが少しでも生かせ、私が望んでいたことができるかもしれないと感じました。さらに、この要請に携わった先輩の話聞き、自分も挑戦したいと思う気持ちが高まり応募するに至りました。

長期派遣ではなく、 短期派遣に応募した理由

元々、青年海外協力隊に憧れていましたが、長期派遣の存在しか知らず、一度も海外に行ったことがない自分が異なる環境で活動できるのか不安が大きかったです。しかし、海外で活動したいという気持ちも強く、どうすればよいかわからないまま大学生活を送っていました。そして大学2年時に大学連携の短期派遣の存在を知りました。長期休みを利用して、4人の同じ大学の仲間たちと自分が大学で学んだことを生かせるということに、不安はあまり感じず、やる気になる自分を感じました。そして短期派遣を経験して、今後、自分が長期派遣に挑戦しようと思うのか確かめることができるのではないかと思ったことも短期派遣で参加しようと思った理由です。

帰国後の進路

大学院進学。大学院卒業後は、長期派遣に応募することを考えています。

現地で見つけた課題

パラグアイの小規模酪農家では、遺伝子改良されていない牛を搾乳しています。そのため乳量は非常に少なく、頭数も少ないため経営的に厳しい状況です。また、自然分娩が多いため効率的な繁殖ができていない、冬の餌不足、搾乳衛生が適切でなく乳房炎につながりやすい、経営の管理が徹底されていない、という課題も抱えています。

課題解決への取り組み

パラグアイの小規模農家12戸において、短期隊員は、繁殖、飼料、搾乳衛生、経営のそれぞれの担当に分かれモニタリング調査を行い、結果をまとめ農家さんにフィードバックするという活動を行いました。私は、搾乳衛生担当で主に乳量の測定、乳房炎検査、搾乳手順の評価を行いました。これまでの短期隊員や長期隊員のデータと照らし合わせて乳量・乳房炎の推移、改善できそうな項目をまとめて農家さんにスペイン語で報告しました。

派遣終了時の成果を教えてください

1ヶ月という短い派遣であったため、成果といえるものを残すことができたのかは実感できていません。しかし、今回の調査で搾乳衛生の面では搾乳手順が全ての農家さんで改善されていること、乳房炎牛の割合が減少していること、乳量もわずかながら増加していることが分かりました。また、手搾りでなくミルカー搾乳を行っている農家さんでは、乳房炎牛が一気に増加しており、ミルカーを正しく使わなければ搾乳手順が改善されていたとしても乳房炎を広げてしまう原因になることに気づくことができました。報告を通して「改善してみよう。」と言ってくださった農家さんもいました。



現地で見つけた課題

課題解決への取り組み

派遣終了時の成果を教えてください



* 冬の間の餌不足でやせ細ってしまった牛たち

■ 経験者インタビュー

応募前にどんな不安を持っていましたか？

短期間に12戸の農家に調査へ赴き、結果をまとめてスペイン語で報告するという活動は、自分に果たしてできるのだろうかと不安でいっぱいでした。特にスペイン語は、派遣が決まるまで触れたことがない言語であったため、農家さんに自分の質問や報告が伝わるのかが最も心配でした。そして搾乳の調査も農家さんにできるだけ迷惑をかけないように、調査すべき内容を確実に遂行できるのかも自信がありませんでした。

その不安は派遣されてからどう変わりましたか？

農家さん方は私の拙いスペイン語を聞こうとくださったり、通訳の方・長期隊員が協力してくださって、調査を無事に遂行することができました。また、言葉はわからなくても、私が伝えようとしていることを農家さんが汲み取ってくださったことや、農家さんが伝えようとしていることをなんとなく理解できたということがしばしばありました。そういう体験をしたことで少し不安はなくなりました。調査も毎回、少し緊張はしましたが、調査を重ねるにつれて段取りが分かり、少しずつ自信を持って調査を行ったり報告準備や、報告をすることができました。

短期で参加して「良かったこと」「大変だったこと」を教えてください。

大学には、国際協力分野で活動されている先生方が多く、講義などでその喜びや苦勞を聞く機会が多いのですが、具体的には想像できませんでした。しかし、短期間ですがパラグアイへ青年海外協力隊として派遣されたことで様々な課題を見つけることができました。もっとこうした方がいいけれど、現地ではお金がない、日本とシステムが異なっていてできない、ということや政府が望んでいる方向と農家さんたちが望んでいる方向が異なるなど、実際に活動することでプロジェクトの難しさを肌で感じました。短い期間でしたが、多くの貴重な体験をし、自分の視野を広げることができたのでよかったです。そして今回の派遣で自分に足りないことが少し整理でき、言語や専門性の勉強をもっとして、再び国際協力に挑戦したいと思うことができた点もよかったですと思います。

応募を検討している人へメッセージをお願いします！

短期隊員は短い期間ですが様々なことを学び、視野を広げることができると思います。不安の方が大きいと思いますが、少しでもやりたいという気持ちがあるなら挑戦してみると新たな道に出会えるかもしれません。

JICA海外協力隊（短期派遣）

- 経験者の活動紹介 -
3

（長期派遣経験者）

氏名

岩崎 広貴

HIROKI IWASAKI

派遣国

タンザニア



派遣職種

野球

シニア海外協力隊

任期

2019年12月1日-2020年3月31日

要請内容

タンザニア野球ナショナルチームへの技術指導および短期間派遣される大学連携派遣の短期隊員と協力して小学校および中等学校における野球普及活動を実施する。

- 1、ダルエスサラームに居住するナショナルチームメンバーに対する技能強化
- 2、ダルエスサラーム地区内にある中等学校において、
野球に興味を持つ学生に対して野球指導を行う
- 3、2月中旬から約1か月間、派遣予定である大学連携派遣の短期隊員と協力し、
小学校および中等学校における野球普及活動を実施する



応募前の職業

大学卒業後社会人野球を経て、30歳で高校教諭（兵庫県採用：商業科）となり、硬式野球部監督も退職まで30年間務めました。

JICA海外協力隊 （短期派遣）への 参加理由

短期派遣の要請に「大学連携派遣の短期隊員と協力」という内容があったので応募しました。理由は、かつてJICA海外協力隊として長期で派遣されていた時、2年間、大学連携派遣の短期隊員をサポートした経験があったため、現地の要望を一番把握している自分が最適だと考えたからです。

長期派遣ではなく、 短期派遣に応募した理由

長期派遣では要請がなかったのもそうですが、大学連携サポートを行うということと、日常会話程度のスワヒリ語が必要という要請を条件としていたので応募しました。

帰国後の進路

2020年3月現在、本要請にて活動中。
帰国後は再度JICA海外協力隊に参加することを検討しています。

現地で見つけた課題

とにかく野球用品・備品の不足がネックになっていました。(タンザニア各地を巡回指導していく中で、様々な地域からの野球教室開催の要請も増えてきましたが用具が不足の為、実現出来なかったこともありました。)

※写真はグローブがほとんどないので素手で守備練習をしているところ



*小学生チームの写真



*女子選手を指導するナショナルチームの選手



*ケニアでの東京オリンピック予選で主審を務める選手



*東京オリンピック予選前の準備体操をするナショナルチームの選手達

課題解決への取り組み

バット代わりに棒、ボール代わりにペットボトルのフタや布ボール等を使って練習することもありました。「[世界の笑顔のために](#)」プログラムのおかげで少しはよくなりましたが、写真のようにおおよそ日本では使用しないような用具で活動している状態です。



↓写真は手作りの布製ボール



現在の成果を教えてください

前述した様に用具不足ながら選手達の野球に対する取り組み・意識が年々上昇してきています。今では野球経験者が未経験者に積極的に指導するなど自立してきています。チーム数・選手数も3年前に比べると激増してきています。

3年前はsecondary school*の

男子野球チームが7チームでしたが、現在は20チーム弱あります。女子ソフトボールチームも8チーム、小学校野球チームも10チームあります。

また、タンザニア人指導者の成長と、国際大会に十分通用する審判員も育ってきています。

* secondary school : 14歳から17歳の4年制学校

応募前にどんな不安を持っていましたか？

JICA海外協力隊（長期派遣）を経験しているので現地生活や活動に関しては不安はありませんでしたが、合格するかが不安でした。

短期で参加して「良かったこと」「大変だったこと」を教えてください。

●良かったこと：チームの課題が明確だったので、短期間でも以下のように成果を上げることができました。

- 1) 費用の掛からない市内大会を開催できたこと
- 2) 野球経験者による小学生向けの野球教室を自主開催できたこと
- 3) 様々な地域の教師向け野球教室が開催できること

●大変だったこと：やはり、野球用具不足でタンザニア各地における野球教室参加者はたくさんいますが、その運営に四苦八苦していることです。

応募を検討している人へメッセージをお願いします！

海外ボランティアの経験が有る・無しにかかわらず、シニア世代の経験豊かな知識・技術を開発途上国に伝えていくことは十分に国際貢献に役立つと考えています。また、文化・生活・宗教などが違う世界で活動することによって、何よりも自分自身の成長につながるということを実感しましたので、是非とも積極的に応募して頂きたいと思います。

JICA海外協力隊（短期派遣）

短期派遣
合格者データ

【合計合格者数】

65名

【上記内、区分割合】

短期派遣【一般案件】

56名

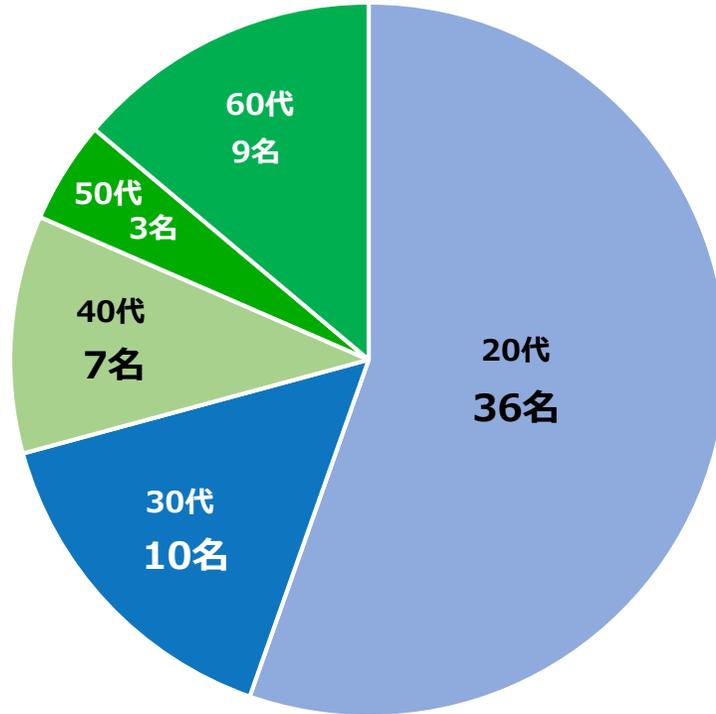
短期派遣【シニア案件】

9名

【上記内、長期協力隊経験者数】

29% (19名)

【合格者平均年齢分布】



【合格者平均年齢】

33.5歳

【合格者職種ランキング】

スポーツ関連職種	34名
保健医療関連職種	8名
教育関連職種	6名
その他職種*	18名

*その他職種・コミュニティ開発／コンピュータ技術／デザイン／経営管理など

【合格者の語学レベル】

Aレベル	21%
Bレベル	6%
Cレベル	25%
Dレベル	48%



是非ご自身にあった要請をお選びください！

JICA海外協力隊
(短期派遣)